

2017年1月11日
東ソー株式会社

新規導電性高分子材料を開発

東ソーは、高性能な新規導電性高分子材料（開発名：TS-CP90）を開発しました。

現在主流の導電性高分子は、外部ドーピング型（スラリー分散液）のため、加工性（成膜性）および耐久性などに課題があります。この問題を解決するために、各種の自己ドーピング型導電性高分子（均一水溶液）が提案されていますが、その導電率は非常に低く、実用化に向けて性能改善が求められています。

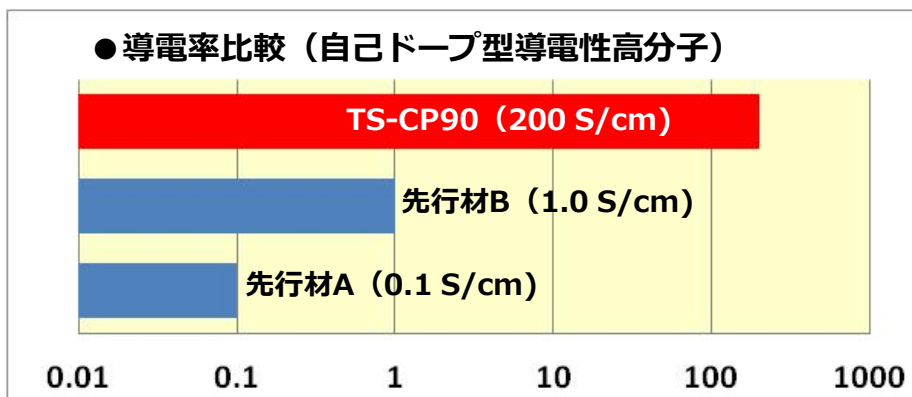
当社が開発した「TS-CP90」は、世界トップの高導電率（200 S/cm）を有する自己ドーピング型導電性高分子です。本材料は、自己ドーピング型のため、加工性・耐久性に優れる特長を有し、既に帯電防止フィルムやコンデンサ用途などにおいて、その有効性が実証されています。

開発材料の特長は下記の通りです。

記

1. 「TS-CP90」の特長

- 基本物性 : 導電率 = 200 S/cm（自己ドーピング型としては世界トップ値）
- 製品形態 : 均一水溶液（加工性・耐久性に優れる）



2. 展示会出展のご案内

- 第18回電子部品・材料EXPO（2017年1月18日～20日、東京ビッグサイト）
 - ・出展材料：塗布型電子材料（導電性高分子、有機EL材料、有機半導体材料）

以上